

トップライト

項 目		品 質 ・ 性 能	
性 能	気密性	気密性による等級	A-4
		気密等級線	A-4 等級線
		該当する等級について、通気量が JIS A 4706(2015)「サッシ」の図 1 に規定する気密等級線を上回らない。	
	水密性	水密性による等級	W-5
		サッシ前後の圧力差	500 Pa
		加圧中に JIS A 1517(1996)「建具の水密性試験方法」に規定する枠外への流れ出し、しぶき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しない。	
耐火性能	建築基準法施行令第百七条による屋根の 30 分耐火構造とする。		
〔付 帯 性 能〕	断熱性 (断熱製品に限 る) [表示項目]	断熱性による等級	H-3
		標準化 (された) 熱貫流率	3.49W/(m ² ・K) 以下
	<ul style="list-style-type: none"> ・結露対策：結露が予測される場合には、結露受けの設置、適切な水抜き処理等が施されている。 ・ガラス破損落下防止対策：採光部のガラスが破損した場合の室内への落下防止対策をしている。 ・開閉機能：主として排煙等の目的で開閉機能を有するものについては[表示項目]とする。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策への手段の確認 建物設計段階から設置後まで、採光部の破損・転落事故に対する警告と注意を製品のカタログ、取扱説明書、本体に貼るシール等に明示・周知する等の安全対策を講じていることを確認する。 			

3. 加工及び組立

- 1) 枠部材の接合は、強固で、見え掛り箇所（ねじを含む）は平滑である。
- 2) 枠には、必要に応じて付属部品を取り付けるための補強が施されている。
- 3) 補強を用いる場合には接触腐食を起こさないよう処置してある。
- 4) 組立ては、形状寸法、取合い等を正確に行い、特に雨仕舞い及び開閉具合（開閉機構のある製品に限る）に注意している。
- 5) 枠、水切り板等のアンカー間隔は、製品に相応したもので、端部は 150mm 程度に押さえて、間隔は 500mm 以下である。
- 6) 雨水の浸入の恐れがある接合部には、その箇所に相応したシーリング材又は止水材を用いて漏水を防いだものである。
- 7) ガラス溝の寸法・形状等は、「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」の 16.14.3 [ガラス溝の寸法、形状等] によっている。

4. 試験方法

試験方法は、耐風圧性については JIS A 1515 (1998)「建具の耐風圧性試験方法」

気密性 については JIS A 1516 (1998)「建具の気密性試験方法」

水密性 については JIS A 1517

断熱性 については JIS A 1492 (2006)「出窓及び天窓の断熱性試験方法」

ただし、平成 18 年以前の評価については、JIS A 4710 も可としている。

試験体は、申請品のうち形状の異なる製品について、開口部 2,000mm 角程度までの最大寸法とする。
また、試験体の選定については協議することとしている。